



Title	在日韓国・朝鮮人のバイリンガリズム : アンケート調査の結果から
Author(s)	生越, 直樹
Citation	待兼山論叢. 日本学篇. 1982, 16, p. 5-24
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56481
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

在日韓国・朝鮮人のバイリンガリズム

——アンケート調査の結果から——

生 越 直 樹

序

現在、日本には約66万人の韓国・朝鮮人（以下本稿では朝鮮人と総称することにする）が居住している。にもかかわらず、従来日本は単一民族・単一言語の国家だとされ、朝鮮人・中国人を始めとする少数民族の存在はほとんど無視されてきた。最近、日本社会の国際化が叫ばれているが、日本と外国の間の問題だけではなく、日本の中の少数民族の問題についても真剣に取り組む必要があるのではなかろうか。特にその言語についての問題は、民族教育との関連からも重要な問題の一つであろう。

しかしながら、今までのところ日本に住む少数民族の言語・言語生活についての研究は、ほとんどなされていないようである。在日朝鮮人の場合も、その言語・言語生活についてはほとんどわかっていない。在日朝鮮人の言語・言語生活についての研究でこれまでに公表されたものとしては、筆者の調べた範囲で、塚本勲（1964）、朴正汶（1976）、比嘉正範（1980）があるのみである。⁽¹⁾これらの論文は、在日朝鮮人の言語・言語生活の実態を初めて明らかにした点で有意義なものであるが、いずれも概括的あるいは部分的な実態が述べられているだけで、その詳しい実態までは明らかにされていない。

そこで筆者は、在日朝鮮人の言語生活の実態をいくらかなりとも明らかにするため、1981年から1982年にかけて主に大阪府在住の朝鮮人を対象にし

て、言語生活についてのアンケート調査を行った（〈資料〉参照）。その結果、個人によってその言語生活にかなりの差のあることがわかった。本稿では、調査のうち相手と状況によることばの使い分けの結果を中心にし、在日朝鮮人のバイリンガリズム（二言語使用）における個人差とその要因について考えてみることにする。

1. 在日朝鮮人の歴史と現状

1.1. 在日朝鮮人の歴史

在日朝鮮人の歴史・現状については、すでに多数の著書・論文が著されているので、ここでは概略的な説明をするにとどめておく。

表1のように、1909年頃に日本にいた朝鮮人はごくわずかであった。1910年以降本格化した日本の植民地支配により、多数の朝鮮人農民が没落した。これら没落した朝鮮人農民は、1920年代・30年代にかけてその多く

表1 在日朝鮮人人口の推移

年 度	人 数(人)
1909	790
1920	30,175
1930	298,091
1940	1,190,444
1944	1,936,843
1950	544,903
1960	581,257
1970	614,202
1980	664,536

1909年～1944年は姜在彦(1976)、1950年～1970年は法務省入国管理局(1981)、1980年は総理府統計局(1981)による。

が日本に渡り、土木や鉱山の仕事に従事した。さらに1939年からは、多数の朝鮮人が日本の労働者不足を補うため、強制的に日本に連れて来られた。その結果、1944年における在日朝鮮人の数は、約200万人にも達した。

1945年に日本が戦争に敗れ朝鮮が解放されると、多数の朝鮮人が祖国に帰った。その一方で、祖国の政治情勢が不安定なため、あるいは日本に生活の基盤をもつため日本に留まった人もおり、1950年の在日朝鮮人の数は50万人程度になった。

1959年からは、朝鮮民主主義人民共和国への帰国船が運行され、1967年にかけて約8万人が帰国した。一方1965年には、大韓民国との間に日韓条約が結ばれ、それに伴い一部の在日朝鮮人に日本における永住権が与えられた。なお、在日朝鮮人の数が1960年以降も少しずつ増えているのは、主として二世・三世の出生による自然増である。

1. 2. 在日朝鮮人の現状

現在、在日朝鮮人の数は約66万人であり、在日外国人の84.9%を占めている。⁽²⁾ またそのほとんどが、1945年以前に日本へ来た人とその子孫である。居住地域では、その多くが京阪神地域に住んでおり、中でも大阪府には、全在日朝鮮人の約3割にあたる19万人が住んでいる。さらに、大阪府の朝鮮人のうち約6割が大阪市、約1割が東大阪市に住んでいる。大阪市の中でも生野区・東成区が多く、特に生野区は日本人も含めた全人口のうち約2割が朝鮮人である。

次にその出生地をみると、祖国で生まれた人の割合は年々減り続け、現在では日本生まれの人が全体の4分の3を占めるに至っている。さらに、日本で生まれた子供たちの3分の2以上が日本の学校に通っている。

2. アンケート調査の概要

この調査は、1981年10月から1982年1月にかけて、大阪府下にあるいわゆる夜間中学（正式には中学校の夜間学級）と民族学校において行ったものである。夜間中学は、学期に何らかの事情で小中学校へ行けなかった人を対象とした学校で、大阪では多くの在日朝鮮人がこの夜間中学に通っている。

今回の調査は、先生方の協力を得て、守口市立第3中学校・東大阪市立長栄中学校・大阪市立天王寺中学校の各夜間学級において実施することができた。さらに、同様な調査を民族学校である建国中学・高校にお願いし、同校生徒の父兄に対しても実施した。

調査方法は、守口第3中学・長栄中学では筆者立ち合いのもと各自アンケート用紙に回答を書いてもらった。天王寺中学校では調査を先生に依頼し、個人面接をしながら先生の手で回答を書き込んでもらった。建国中学・高校では、生徒を通じて両親に調査票を配布し、回答後再び生徒を通じてそれを回収した。

以上の結果、回答が不完全なものなどを除き計133名の回答が回収された。その内訳は、守口3中12名、長栄中33名、天王寺中30名、建国中・高58名である。

表2 回答者の年令

年 令	人 数
61～72才	20人 (15.0%)
51～60	52 (39.1)
41～50	43 (32.3)
29～40	18 (13.6)
計	133 (100.0)

表3 回答者の来日年令

来日年令	人 数
21～31才	6人 (4.6%)
11～20	41 (30.8)
0～10	28 (21.0)
日本生まれ	56 (42.1)
不 明	2 (1.5)
計	133 (100.0)

表 4 回答者の居住地域

地域名	人 数
生 野 区	47人 (35.3%)
東大阪市	25 (18.8)
東 成 区	12 (9.0)
そ の 他	49 (36.9)
{ 大阪市内	{ 34 (25.6)
{ 大 阪 府	{ 12 (9.0)
(大阪市外)	
{ 他 府 県	{ 3 (2.3)
計	133 (100.0)

回答者の年齢・来日年齢・居住地域は、表2～表4のようになる。回答者の年齢は40才代・50才代が最も多く、全回答者の平均年齢は51.5才であった。祖国生まれの人と日本生まれの人の比率は、6：4で祖国生まれの人が多い。居住地域は、大阪府下でも朝鮮人の多い生野区・東大阪市・東成区に住む人が多く、この3つの地域で全体の約6割を占める。

さらに回答者の来日年代をみると、歴史の上で在日朝鮮人が急増する1930年代に、全体の64.0%の人が来日している。また、回答者の性別は、女108名、男25名で圧倒的に女性が多かった。これは、夜間中学に通う在日朝鮮人に女性が多いためであり、従って今回の調査では、男女の差について分析することはできなかった。

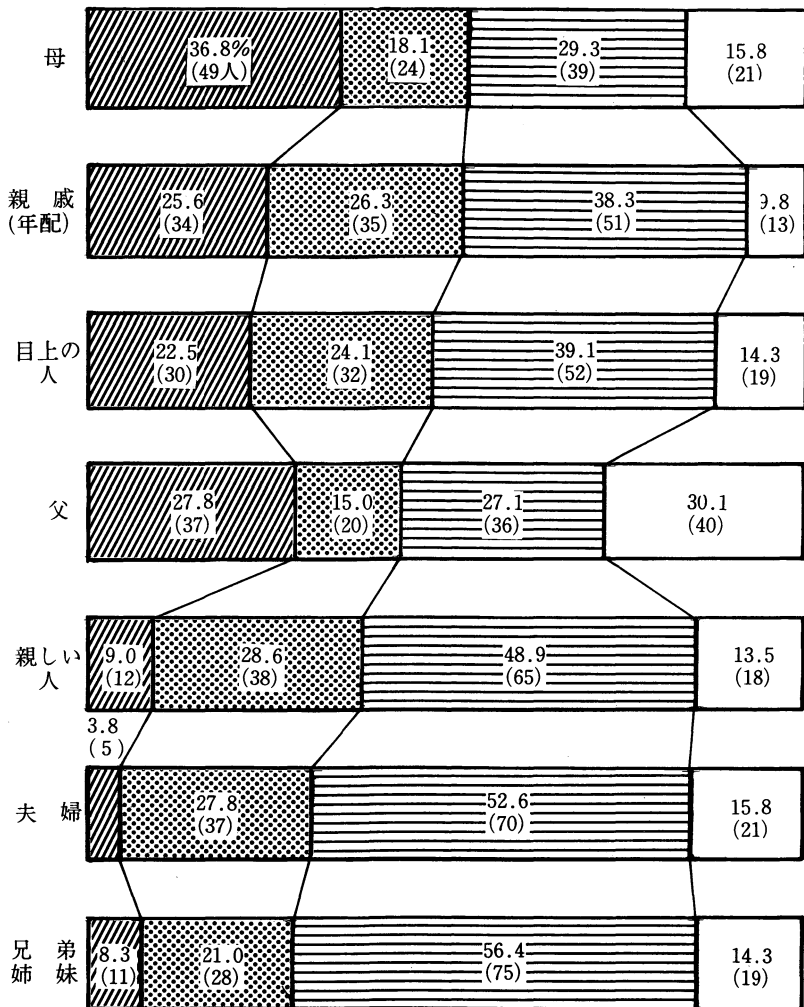
今回の調査の回答者のほとんどは、在日朝鮮人の中でもいわゆる一世の人と、年令的に一世に近い二世の人である。また、地域的にも在日朝鮮人の多く住む所の人が多く、今回の回答者は、比較的祖国あるいは同胞とのつながりが濃い人たちであるといえよう。

3. 調査結果の分析

3. 1. 相手によることばの使い分け

まず、在日朝鮮人が相手のどういう特徴によってことばを使い分けしているか、その全体的傾向と個人差について検討してみたい。

図1 相手によることばの使い分け



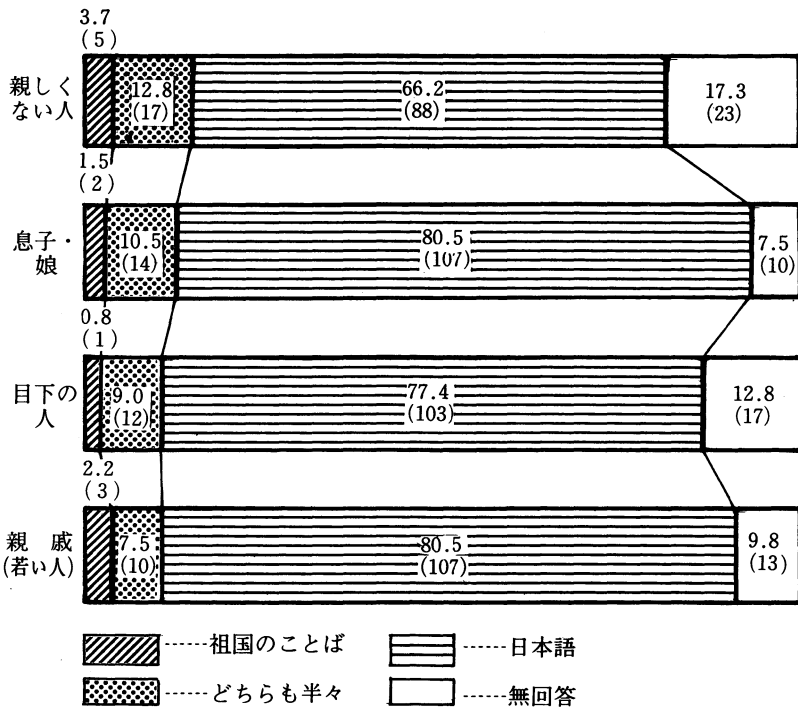


図1は、アンケートでいろいろな相手に対することばの使い分けについて尋ねた結果である（〈資料〉質問④参照）。図1から全体的傾向として次の点を指摘することができる。

- ①自分より年上の相手（父・母・親戚年配・目上の人）には、「祖国のことば」あるいは「どちらも半々」と答えた人が多い。
- ②自分より年下の相手（息子娘・親戚若い人・目下の人）や親しくない人には、「日本語」と答えた人が多い。
- ③自分と同年代の相手（夫婦・兄弟姉妹）や親しい人には、「どちらも半々」と答えた人がかなりいる。

③の「夫婦」「兄弟姉妹」「親しい人」という相手は、いずれも気がねなく気楽に話のできる相手であり、そういう相手には、祖国のことばと日本語の両方を使って話をするといえるかもしれない。

以上全体の結果からみると、在日朝鮮人は相手の年令、相手との親しさによってことばを使い分けているようである。しかしながら、この傾向が回答者全員にあてはまるものとは思えない。たとえば、年下の相手・親しくない人に対しては、ほとんどの人が「日本語」と答えているのに対し、年上の相手・同年代の相手・親しい人に対しては、「祖国のことば」「どちらも半々」と答えた人と、「日本語」と答えた人に大きく分かれている。つまり、誰に祖国のことばを使うかは、個人によって差があるようである。そこで、誰に祖国のことばを使うかにより、回答者をいくつかのグループに分けてみることにした。

まず、「祖国のことば」「どちらも半々」の占める割合の高い年上の相手に対する項目から、「母」「親戚年配」「目上の人」の3つの項目を選び、3項目のうち2項目以上「祖国のことば」または「どちらも半々」と答えた人を◎、1項目の人を○、3項目とも「日本語」と答えた人を×とした。

同様に、「どちらも半々」の占める割合が比較的高い同年代の相手・親

表5 相手によることばの使い分けからみた回答者の分類

		親しい人・同年代の相手			計	
		◎	○	×		
年上の相手	◎	40人	23	11	74	B
	○	1	2	8	11	
	×	0	0	33	33	C
	計	41	25	52	118	
		A			無回答15	

しい人に対する項目から、「夫婦」「兄弟姉妹」「親しい人」の3つの項目を選び、年上の相手の場合と同じ基準で回答者を◎○×の3つに分類した。その分類の結果を示したのが表5である。表の中でともに◎の人は、最も広い範囲で祖国のことばを使う人であり、どちらも×の人は相手に祖国のことばを使わない人となる。

表でわかるように、同年代の相手・親しい人に対して◎か○で、年上の相手に対して×の人はいない。従って、祖国のことばを使う範囲からみると、回答者はどちらも◎の人(以下Aグループと呼ぶ)、どちらも×の人(以下Cグループと呼ぶ)、その以外の人(以下Bグループと呼ぶ)の3つに大きく分けることができる。ただし、同年代の相手・親しい人に対して「祖国のことば」「どちらも半々」と答えた人は、年上の相手に対して同様の答をした人に比べ数が少ない。そのため、同年代の相手・親しい人に対する◎をより重視し、同年代の相手・親しい人◎、年上の相手○の人1名はAグループに含めた。その結果、Aグループ41名、Bグループ44名、Cグループ33名、無回答者15名となった。

同年代の相手・親しい人の中で選んだ「夫婦」「兄弟姉妹」「親しい人」の3つの項目は、前にも述べたように、いずれも本人にとって気楽に話のできる人であり、日常生活で最もよく話す人である。これらの相手に祖国のことばを使うということは、それだけ祖国のことばが日常生活の中に入り込んでいるということになる。従って、これらの相手に祖国のことばを使うAグループは、極めて日常的な生活においてもバイリンガルな(二言語使用の)生活をしていると予想される。

一方、Bグループは、年上の相手に祖国のことばを使う点では、Aグループと同様バイリンガルな生活をしていると考えられるが、同年代の相手・親しい人にあまり祖国のことばを使わないのであるから、極めて日常的な生活においては、主として日本語を使っているのではなかろうか。さらに

Cグループについては、相手によることばの使い分けをみる限り、日本語だけのモノリンガルな生活をしていると考えられる。

3. 2. 状況によることばの使い分け

ここでは、A～Cの3つのグループと状況によることばの使い分けの関係について考えてみたい（〈資料〉質問③参照）。なお、この質問項目では「祖国のことば」という答が少なかったので、答を「どちらも半々」「祖国のことば」と「日本語」の2つに分けて検討する。

図2 状況によることばの使い分けと各グループの関係
—「祖国のことば」「どちらも半々」の占める割合—

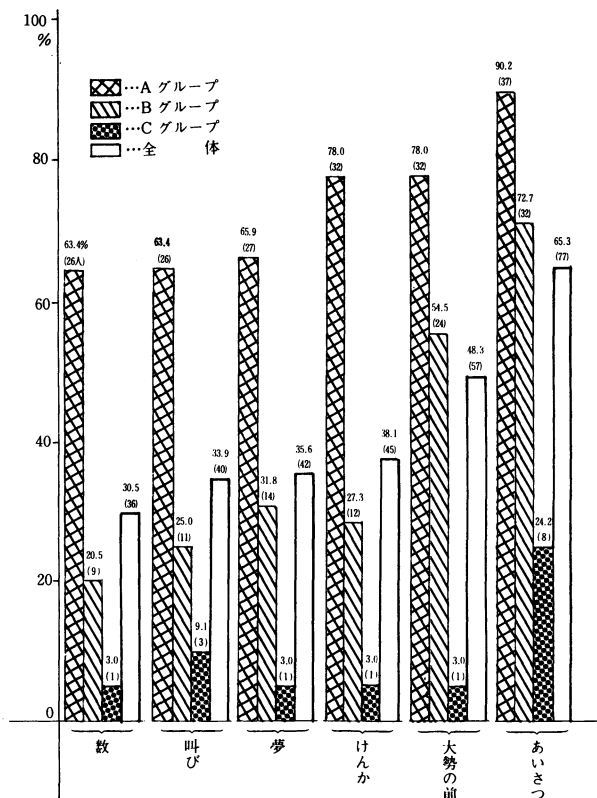


図2は各状況について、「祖国のことば」「どちらも半々」と答えた人の割合をグループ別に示したものである。図の「数・叫び・夢・けんか・大勢の前・あいさつ」は、アンケートにおける「数を数えたり計算するとき」「叫び声をあげるとき」「夢の中で」「けんかをするとき」「大勢の同胞の前で話すとき」「同胞の知った人にあいさつするとき」の各質問項目を示している。

図2によると、「数・叫び・夢・けんか」の4つの状況では、B・Cグループに比べAグループの割合がかなり高い。また、「あいさつ・大勢の前」の2つの状況では、Cグループに比べA・Bグループの割合が高くなっている。

ここで、質問であげた6つの状況における言語行動の種類を考えてみると、これらは自分の感情・考えの表出と、自分の意図の他者への伝達の2種類に分けることができると思われる。「数・叫び」は前者であり、「あいさつ・大勢の前」は後者に属するものと考えられる。「けんか」の場合、自分の意図の他者への伝達ではあるが、一種の興奮状態での発話であり、むしろ自分の感情の表出としての性格が強いのではなからうか。また、「夢」は自分の感情・考えの表出ではあるが、その内容はしばしば他者とのコミュニケーションを含むことから、両方の性格をもつものといえるかもしれない。

こう考えると、図2でAグループとB・Cグループの間に大きな差がみられるのは、「数・叫び・夢・けんか」といういずれも自己表出的な性格をもつ言語行動においてである。また、A・BグループとCグループで大きな差がみられるのは、「大勢の前・あいさつ」という他者伝達的な性格をもつ言語行動においてである。

Aグループでは、他者伝達的な言語行動だけでなく、自己表出的な言語行動においても祖国のことばを使うと答えた人が多い。つまりAグループ

では、祖国のことばが他者への意図伝達的手段としてだけでなく、自らの感情・思考の表現手段としても用いられている。ということは、それだけ祖国のことばが彼らの心情と密接に結びついているといえよう。ただし、状況による使い分けにおいては、「どちらも半々」という答が多かったのであるから、同様のことが日本語についてもいえるであろう。今回の調査だけでははっきりしないが、Aグループでは、祖国のことばと日本語が拮抗した状態にあるのかもしれない。

これに対し、Bグループが祖国のことばを使うのは、他者伝達的な言語行動においてであり、自己表出的な言語行動においてはあまり祖国のことばを使わないようである。自己表出的な言語行動では、自分の思うままのことばで話せるのに対し、他者伝達的な言語行動では、相手との関係（民族・年齢・地位・親しさなど）を意識しつつ話さねばならない。特に、あいさつや大勢の前で話す場合には、相手との関係を良好に保つことが必要となる。従って、Bグループは、相手との関係を意識しつつ話すときに祖国のことばを使うのではないかと考えられる。

このことは、相手によることばの使い分けからもいえる。Bグループは相手によることばの使い分けで、年上の相手に対しては祖国のことばを使い、同年代の相手・親しい人に対してはあまり祖国のことばを使わなかった。同年代の相手や親しい人と話すときには、自分と相手の関係にあまり気を使う必要もなく、ある程度自分の思うままのことばで話すことができる。これに対し、年上の相手と話すときには、自分と相手との関係を損ねないようにことばや話し方に気をつける必要がある。このように、Bグループが祖国のことばを使うのは、いずれも自分と相手との関係を意識し、同時にその関係を良好に保とうとする場合である。以上のことから考えて、Bグループにとって祖国のことばは、社交のための道具としての性格が強いようである。このように社交の道具として祖国のことばを使う背景には、

年長者に対する礼儀や民族意識などがあるのではなかろうか。

調査結果をみると、Aグループ・Bグループとも、2つのことばを使って生活していると予想され、その点では両者ともバイリンガル（二言語使用者）であると考えられる。しかし、両者のバイリンガリズムの程度をみると、その間にはかなりの差があるように思われる。Bグループのようなバイリンガルとモノリンガルの間ともいえる状態については、今後さらに詳しい調査が必要であろう。

一方、Cグループの場合は、相手によることばの使い分けと同様、状況においてもほとんどの人が日本語を使うと答えている。ただその中で「あいさつ」だけは、4分の1の人が「祖国のことば」または「どちらも半々」と答えている。全体的にみても、「あいさつ」は最も多くの人が「祖国のことば」「どちらも半々」と答えている状況である。あいさつの目的は、その内容よりもことばを交わすことによりお互いの存在を確かめ合うことにあると思われる。そこで祖国のことばを使うのは、そのことによってお互いの民族意識を確認し合うという意味があるのかもしれない。

3. 3. 各グループに属する人の特徴

これまでの考察から、今回の回答者はそのバイリンガリズムの程度によって、A～C 3つのグループに分けられることがわかった。では、このようなバイリンガリズムにおける個人差は、どういう要因によって生じるのであろうか。ここでは、各グループに属する人の特徴について述べてみたい。

まず、各グループと年令・来日年令の関係を各グループごとに示したのが、表6～表8である。表では各グループに属する人が、どの年令・来日年令にあたるかを示している。表の中の斜線は、そのグループだけで、その年令・来日年令に該当する人全体のおおよそ半数以上を占めていること

表6 Aグループと年齢・来日年齢の関係

来日 年齢 年齢	21～31 才	11～20	0～10	日 本 生まれ	計
61～72 才	0 人	10	0		10
51～60	1	13	6	2	22
41～50	1	2	1	3	7
29～40				2	2
計	2	25	7	7	41

表7 Bグループと年齢・来日年齢の関係

来日 年齢 年齢	21～31 才	11～20	0～10	日 本 生まれ	計
61～72 才	2	4	1		7
51～60	0	1	9	3	13
41～50	0	3	4	14	21
29～40				2	2
計	2	8	14	19	43

来日年齢不明 1

表8 Cグループと年齢・来日年齢の関係

来日 年齢 年齢	21～31 才	11～20	0～10	日 本 生まれ	計
61～72 才	0 人	2	0		2
51～60	0	1	3	1	5
41～50	0	0	1	12	13
29～40				13	13
計	0	3	4	26	33

を示す。さらに、人数が多く斜線の集中している部分、すなわちそのグループに属する人の割合が最も高い部分を大まかに太線で囲んでみた。

Aグループの割合が高いのは、表6で太線で囲んだおおよそ年令50才以上・来日年令11才以上の人においてである。この範囲内には全体で34名の回答者がおり、そのうち24名、70.6%の人がAグループに属している。このように、Aグループは高年令でなおかつ来日年令の高い人に多い。また、幼児が言語を完全に習得する年令は12・3才だとされており、来日年令11才以上の人にAグループが多いことは、幼児の言語習得との関係からも興味深い。ただし、Aグループの人の中には年令・来日年令が低い人もおり、これらの人については他の要因との関係を調べる必要がある。

次に、Bグループの割合が高いのは、表7で太線で囲んだおおよそ年令4・50才代、来日年令10才以下か日本生まれの人においてである。この範囲では、総回答者59名のうち30名、50.8%がBグループに属する人である。従って、年令では中間ぐらいの年令で来日年令が低いか日本生まれの人にBグループが多いといえる。

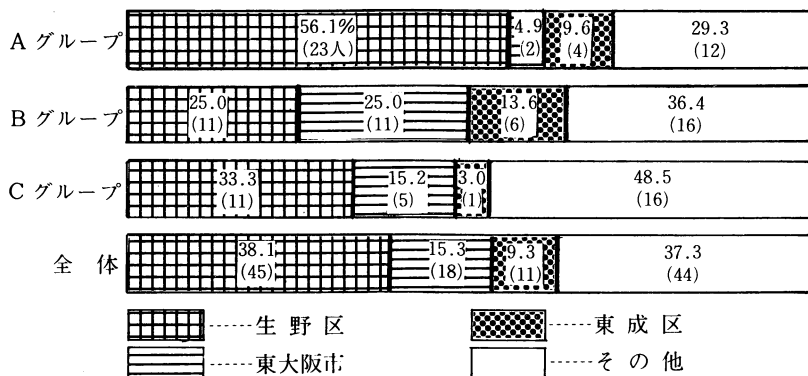
さらに、Cグループの割合が高いのは、表8のように年令がだいたい40才以下で日本生まれの人においてである。この範囲では、総回答者17名のうち13名、76.5%がCグループに属する。当然のことながら、年令が若く日本生まれの人にはCグループの人が多い。

以上のように、各グループと年令・来日年令の関係をみると、各グループとも来日年令と密接な関係をもっていることがわかる。特にAグループとBグループは、来日年令によってはっきり区別されている。さらに、今回の回答者を全体的にみれば、祖国生まれはバイリンガル、日本生まれはモノリンガルという傾向がみられる。ハワイの日系人では二世と三世の間に言語的に大きな隔たりがあるとされるが、在日朝鮮人では一世と二世の間に大きな隔たりがあるようである。⁽³⁾

ただ、バイリンガリズムの程度は来日年令だけに左右されるわけではなく、年令とも関係がありそうである。年令との関係は日本生まれの人において特にはっきりしている。同じ日本生まれの人でも、Bグループの多い年令層とCグループの多い年令層がある。Bグループの多い年令層には祖国生まれの人が多くことから、その年令層に祖国生まれの人が多ければ、日本生まれの人でもバイリンガルになりやすいようである。以上から、祖国生まれの人では、来日年令がバイリンガリズムの大きな要因となり、日本生まれの人では、年令がその大きな要因となるといえよう。

なお、40才以下の人に特にモノリンガルが多いのは、その年令層に祖国生まれの人が少ないことのほかに、学校教育の問題もあるのではないかと思う。40才以下の人は、戦後小学校からはほとんど日本の学校に通った世代である。民族教育の有無とバイリンガリズムの関係については、今回は人数が少なかったためはっきりした傾向を見い出すことができなかったが、今後検討すべき問題であろう。

図3 各グループと居住地域の関係



次に、各グループと居住地域との関係について考えてみたい。図3からわかるように、Aグループの中では生野区の人が半数以上を占める。また、Bグループでは東大阪市・東成区の人が多く、Cグループではその他の地域の人が多い。なお、来日年齢が10才以下でAグループに属する人14名のうち8名が生野区に住んでいる。このように、在日朝鮮人の集住地域に住む人ほどバイリンガルが多いことから、居住地域もバイリンガルな生活を行う要因の一つとしてあげられるであろう。ただし、今回の調査では現住所しか尋ねておらず、回答者の日本国内での転居歴についてはわからない。バイリンガルと居住地域の関係をより明確にするには、現在までの転居歴も含めて検討する必要があるだろう。

結び

これまで、在日朝鮮人の言語生活の実態については、ほとんど明らかにされていなかった。本稿では、アンケート調査の結果から、今回の回答者がそのバイリンガリズムの程度によって大きく3つのグループに分けられること、そしてその程度の差は回答者の年齢・来日年齢・居住地域と関連していることを明らかにした。今回の考察において、在日朝鮮人のバイリンガリズムの輪郭を多少なりとも浮き彫りにできたのではないかと考える。

しかしながら、今後の課題とすべき点も多い。今回行った調査の結果がどの程度実際の状態を反映しているか、さらに検討が必要であろう。アンケート調査の場合、回答者の民族意識の持ち方がその回答に微妙な影響を及ぼすことも考えられる。従って、実態を明らかにするためには、アンケート調査だけではなく、実際の会話や行動についての調査が必要であろう。

ただ、そういう実際の会話や行動に関する調査を行うことが、現状では非常に難しいことも確かである。日本人の朝鮮人に対する根強い偏見・差

別、一方、そういう日本人に対する朝鮮人側の不信感、さらに朝鮮半島を取り巻く政治情勢、これらのことは、在日朝鮮人の言語生活に大きな影響を与えていると同時に、この分野の研究を進める上でも大きな障害となっている。けれども、今回の調査の結果からもわかるように、このまま行けば近い将来、祖国のことばで生活する在日朝鮮人はほとんどいなくなってしまうであろう。日本人にとっても朝鮮人にとっても、今後在日朝鮮人の言語生活がどうあるべきか考えるために、この分野の研究を進めることが急務であろうと思う。

最後に、今回のアンケート調査に協力して下さった守口市立第3中学校・長栄中学校・天王寺中学校の各夜間学級の先生・生徒の方々、建国中学・高校の先生・生徒、そして父兄の方々に感謝の意を表したい。

注

- (1) 未発表ではあるが、大阪外大朝鮮語学科の修士論文・卒業論文の中には、在日朝鮮人の言語・言語生活を扱ったものが数編ある。
- (2) この節であげる数字は、法務省入国管理局(1981)、姜在彦(1976)による。
- (3) ハワイの日系人の世代間での言語的隔たりについては、野元菊雄(1973)、比嘉正範(1974)参照。

主要参考文献

- 姜在彦(1976)「在日朝鮮人の六五年」『季刊三千里』8
- 総理府統計局(1981)『日本統計年鑑(第31回)』日本統計協会・毎日新聞社
- 塚本 勲(1964)「在日朝鮮人の言葉」『朝鮮研究』35
- 野元菊雄(1973)「日本語と日系人」『比較日本人論—日本とハワイの調査から』(林知己夫編) 中央公論社
- 朴正汶(1976)「在日朝鮮人の言語問題」『国語の授業』16
- 比嘉正範(1974)「ハワイの日本語」『現代のエスプリ(ことばと心理)』85
- 〃 (1980)「パイリンガルの言語生活」『日本におけるパイリンガリズム(最終報告)』筑波大学パイリンガリズム研究会

法務省入国管理局（1981）『出入国管理の回顧と展望（昭和55年度版）』
大蔵省印刷局

<資料>

アンケート（ことばについて）

①② （省略）

③ つぎのようなとき、あなたは祖国のことばを使いますか、日本語を使いますか。

1) 夢の中ではどちらですか。（あてはまる答に○をつけてください）

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

2) 数をかぞえるとき、計算するときは、どちらですか。

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

3) 「いたい」「あち！」など、急なさけび声のとき、どちらを使いますか。

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

4) けんかをするときは、どちらですか。

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

5) 同胞の知った人にあいさつするときは、どちらですか。

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

6) おおぜいの同胞の前で話すときは、どちらですか。

1 祖国のことば 2 日本語 3 どちらも半々 4 わからない

④ あなたは、家族やほかの人と話すとき、おもにどんなことばで話をしますか。

（例のように、下の表のあてはまるところに○をつけてください）

	祖国のことば で話す	日本語で話す	どちらも半々 ぐらいで話す
例) 日本人の知りあい		○	
祖父母			
父			
母			
夫、妻			
兄弟姉妹			
息子、娘			
親せき(年とった人)			

親せき(若い人)			
同胞(親しい人)			
同胞(親しくない人)			
同胞(目上の人)			
同胞(目下の人)			

⑤⑥ (省略)

⑦ あなたの年齢, 住所, 職業, 性別についてお答えください。

1) 年齢 ()才 (()の中に数字を書いてください)

2) 性別 1男 2女 (○をつけてください)

3) 住所 ()市 ()区

(()の中に場所を書いてください。町名や番地は必要ありません)

4) 職業 (○をつけてください)

1 会社員 2 商売(店, 食堂など) 3 工業(工場など)

4 なし 5 その他()

⑧1) あなたは, 祖国で生まれましたか, 日本で生まれましたか。 (○をつけてください。日本人の方は日本人のところに○をつけてください)

1 祖国で生まれた 2 日本で生まれた 3 日本人

2) あなたは, いくつのとき日本に来ましたか。 (()の中に数字を書いてください)

()才のとき来た

⑨ 家の近所には, 同胞がたくさん住んでいますか。 (○をつけてください)

1 たくさん住んでいる 2 あまり住んでいない 3 わからない

⑩ あなたが, いつもよく話をする人は, どんな人ですか。 (いくつでも○をつけてください)

1 祖国で生まれた同胞 2 日本で生まれた同胞 3 日本人

⑪ あなたは, 祖国の学校か日本の民族学校に, かよったことがありますか。 (○をつけてください)

1 ある (1 小学校 2 中学校 3 高校 4 大学)

2 ない

⑫⑬ (省略)